

令和 6 年度

# 境港市子ども・子育て会議 会議録（第一回）

日 時 ◇ 令和 6 年 5 月 3 0 日（木） 19:00 ～20:00

場 所 ◇ 境港市保健相談センター講堂

出席委員◇ 委員 1 3 名（別添）

（出席 11 名、欠席 2 名）

傍聴者 ◇ 1 名

会議書記◇ 子育て支援課児童係長 川田順子

(会長)

皆さん、こんばんわ。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより、令和6年度第1回子ども子育て会議を始めたいと思います。

開会に先立ちまして、境港市福祉保健部黒崎部長よりご挨拶いただきます。

(福祉保健部長)

あいさつ

(会長)

ありがとうございました。

それでは審議に入る前に、事務局より報告をお願いいたします。

(事務局)

失礼いたします。

まず初めに審議に入る前に今年度の事務局より、ご挨拶をさせていただきます。

(事務局)

あいさつ

(事務局)

今回、新しい委員の皆様もいらっしゃいますので、改めまして、ご紹介いただこうと思います。また、新規会員様の委嘱状がありますが、本来であればお一人ずつお渡しすべきではありますが、事前に席に配布をさせていただいておりますのでご了承ください。

そうしましたら、小学校PTA江尻さんの方から順番に一言ずつお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

自己紹介

(事務局)

ありがとうございました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

また本日は傍聴者がお一人いらっしゃっておりますのであわせてご報告させていただきます。

次に本日の審議に入る前に資料の確認をさせていただきます。

→資料確認

そうしましたら、本日の会議の成立につきましてご報告いたします。  
境港市ども・子育て会議設置要綱第6条、会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとあります。

本日、現時点で半数以上の方にご出席いただいておりますので、会議が成立することをご報告させていただきます。報告は以上になります。

(会長)

はい。失礼いたします。

今年度も会長させていただきます。

境港市民図書館の館長をしております嘉賀といいます。  
よろしくお願いいたします。

はい、それでは今日のこの次第に沿って議事を進めていきたいと思っています。  
まず1つ目、境港市子ども・子育て支援事業計画（第三期計画）に係るアンケート調査の実施計画について。  
事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

失礼いたします。

会議資料1、2と続けて説明させていただくのですが、資料に間違いがありましたので、修正をお願いします。（修正箇所の説明）

そうしましたら、説明に入ります。

先般実施いたしました第三期計画策定のためのアンケート調査の経過の概要は、4月の中旬に郵送で報告をさせていただいておりますけれども、改めて、5年前に実施した、前回の調査との比較や、調査の結果から見えてきた現在の課題や傾向をお伝えしたいと思います。

まずは調査の概要です。

調査期間は、令和6年1月25日から2月29日の間、市内在住の0歳1歳の保護者様。5歳（年長児）の保護者様。小学校3年生の保護者様、いずれも全数に調査をさせていただきました。

実施方法は郵送、園学校経由で配布いたしまして、回答は郵送またはとっとり電子サービスを利用した回答となっております。回収率は45.2%、うち35%が電子サービスを利用した回答となりました。

前回とは送付件数、抽出要件が違いますが、前回調査の回収率は53.8%ということで、前回と比較し、少し回収率が落ちたという状況になっております。

それではまず第資料1の1ページから3ページになります。

居住地区について、前回調査と比較しまして、外江・境地区の割合が減り、上道・中浜地区が増えているという状況になっております。

次に、兄弟の数です。2人兄弟の割合は前回と変わらず最多となっていますけれども、3人以上の兄弟が増えている傾向がありまして、国県をはじめ、本市独自でも実施している、多子世帯への支援がわずかながらでも影響を与えたのではないかと考えております。

続きまして、問4からの、父親と母親の就労状況についてです。前回と比較いたしまして状況に大きな変化は見られませんが、週6日勤務の割合が減って、週5日勤務が増えており、就労時間についても減少傾向にあります。これは、保護者の就労先の週休2日制の定着だとか、事業所の就労条件の改善が影響しているのではないかと推測されます。

資料1の3ページ目の中段をご覧くださいませでしょうか。問5-1 母親のフルタイム転換の希望の有無についてです。

現在、パートアルバイト就労の母親のうちフルタイムへの転換を希望されている方は、以前の調査と比べて10%増加しております。

また、現在就労されていない方の就労希望期間、時期については、前回調査では下のお子さんが3歳からが特に多かったのですが、今回の調査では1歳からの就労希望が、大幅に割合が増加しており、子どもの就園年齢の低年齢化が進んでいる現状に繋がる結果であると見ております。

次に5ページをお願いします。問7の定期的な教育保育事業の利用についてです。各施設の種類ごとの割合は前回とあまり変わらず、0歳から1歳についても約4割が利用しているという結果となっております。週当たりの利用日数が6日の利用が減って、5日の利用が増えてきております。この結果も保護者の就労先の就労条件等の改善による影響ではないかと思われます。

一方で、6日利用希望の割合が実際の6日利用割合よりも少し多いという結果が出ております。このことから、実際は6日間利用したいけれども、5日しか利用できていない方も少なからずおられるという実態も確認できました。

就労日以外に用事を済ませたいとか、息抜きをしたいという希望があるけれども、実現できていない潜在的なニーズの部分もあるのではないのでしょうか。

現在の利用時間については、実際の利用時間と希望の利用時間と大きな乖離がないので、時間については希望通り利用ができていると思われます。

次に7ページです。問8の平日定期的に利用したい事業について、幼稚園の預かり保育を含め、7割の方が就労等の理由で保育事業の利用を希望されています。

次に問9、土曜日保育、日曜保育についてです。就労先の状況の変化や保護者の働き方の変化からくるものであるかと思えますけれども、前回調査と比べると、土曜保育、日曜・休日保育の利用については、希望の割合が減少しております。

次に8ページの下段をご覧ください。問10の幼稚園に通っている子どもの長期休

暇中の預かり保育の利用希望についてです。毎日の利用希望が増加しております。両親が共働きであっても、幼稚園の教育を希望する方の割合は、以前から一定数おられまして、その傾向は今後も続くと考えております。

次に9ページ。問11をご覧ください。子育て支援センターの利用についてです。0歳から1歳は半数の方が利用しておられる反面、年長児は1割の利用にとどまっております。こちらの事業につきましては、今後、利用の多い年齢に絞り、事業展開を行っていくのか、または幅広い年齢の子どもの利用も想定し、事業の見直しを行っていくのか、今後、研究が必要な部分ではないかと考えます。

次に10ページから16ページの上段にかけまして、本市で現在実施している各種地域子育て支援事業について、認知や利用希望について聞いた結果を載せております。報告書の概要版で、で表してみましたが、認知度が低い事業が多くあり、今まで以上に事業の周知を図る必要があるとわかりました。

子育て中の方に向けて必要なときに必要な情報を発信する方法として、健康づくり推進課が主となり、母子手帳アプリを昨年度から運用しておりますけれども、子育てのライフステージの中で、事業の趣旨や効果を伝える方法を今後も検討していく必要があるとアンケート結果から感じたところです。

次に、16ページの中段を見ていただければよろしいでしょうか。こちらは放課後の過ごし方について、年長児と小学校3年生のお子さんをお持ちの保護者の方に聞いております。本日参考資料として、現在の放課後児童クラブについて、本市の公式ホームページを抜粋したものをお配りしております。そちらもご参照ください。

放課後の過ごし方として、前回調査と比較しまして、小学校低学年についても、自宅という割合が増加しております。放課後児童クラブで過ごす低学年は割合としては減っているという結果が出ております。終了の希望時間については1割の方が、19時までの希望利用を希望しております。

放課後児童クラブの土曜日の利用と休日の利用について、土曜日の利用については、半数以上の方が利用希望なし。休日の利用については8割強の方が利用希望なしとなっていますが、やはり利用希望される方もおられますので、この辺りは今後検討が必要な部分ではないかと思えます。

また、長期休暇中の放課後児童クラブについて、6割強の方が利用を希望されており、開始時間は8時から、終了時間は18時までを希望された方が最も多いですが、7時からの開始、19時までの開所希望についても1割ずつおられます。

以前からクラブの開所時間等につきましては、ご意見をいただくことがございますので、併せて、今後どのような運営をしていくべきか、継続して検討を行っていく必要があると思われます。

次に、21 ページの問 18 をご確認ください。育児休業取得についてです。  
母親については前回調査と比較して育児休業取得率が 1 割以上増えています。  
また、22 ページの父親についてですが、取得が前回の 1.5% から、今回 18.8% と大幅に割合として増えているところです。  
こちらについては、就労先におけるワークライフバランスの実践や子育て応援できる職場づくりの推進、また保護者の意識の変化からくる結果であると考えております。

一方で、職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった、仕事が忙しい、雇用上取得できなかったなど、就労先や、経済的な事情で希望通りに育児に専念ができなかった現状があるということは、いまだ課題だと認識しております。

23 ページ、問 18-2 をお願いします。育児休暇復帰のタイミングについてです。  
「入園のタイミング」が前回同様、9 割を超え、保育園入園に合わせて育休を切り上げたり、延長したりしていることがわかります。

24 ページには実際の復帰時期、25 ページには希望の復帰時期を掲載しております。  
希望より早く育休復帰した理由で、やはり保育園等に入るための一番多く、経済的な理由も次に多い結果となっております。

その他に職場が育休延長しにくい雰囲気、職場に育休延長制度がないなどもあり、途中入園の受け入れ体制を整えるとともに、職場への働きかけも引き続き必要であると考えております。

また、その他の内訳で「働いていた方が楽」、「ずっと家で子どもと 2 人ではしんどい」などと少数意見の中にも支援を検討する必要があるものもみられました。

28 ページ、問は 18-5 をご覧ください。母親が希望より遅く、育休復帰をした理由の中に、「希望園に入れなかったため」が一番多いですが、次いで「子どもを見てくれる人がいなかった」とあります。核家族化により、保護者以外の大人が周りにいない、預けることのできない子育て世帯が増えている傾向が見られると考えております。

次に 29 ページです。育短勤務制度の利用についてです。前回調査と比較して利用した母親が 1 割増えています。こちらも就労先の子育てを応援できる職場づくりが進んできており、育短制度の周知や利用を後押しする取り組みの成果であると考えております。しかしながら父親の利用はまだ、まだ少数となっております。

30 ページをお願いします。問 18-8。1 歳で必ず預けることができる場合、1 歳になるまで育休を取得したい方は 9 割となります。保育園の入園に左右されない、希望した時期に年度中いつでも入園できる体制を整えることについては、引き続き本市が取り組むべき課題であると考えております。

31 ページです。本市が重点的に取り組む必要の高い施策について、前回調査と同じ項目に多くの回答がありました。

「保育園、子育て支援センターなど、子育て支援関連施設の整備」に代わり、「放課後

児童クラブの充実」の割合が増えてきております。また、その他の内訳の方にも、様々なご意見をいただいております。

資料の2につきましては自由記述を記載しておりまして、分野別に集約したかったのですが、取り急ぎ原文ママ入力したものを配布しておりますので、こちらは各自ご確認をお願いしたいと思います。

アンケート調査の結果や自由意見の中から状況を整理すると、子育てと仕事の両立という部分において、前回調査に比べ改善が見られています。

しかしながら、父親の育児参加が進んできてはいるが、職場や働き手の意識の部分について、今後も継続した働きかけが必要であるということがわかりました。

また、入園児童の低年齢化に伴う、3歳未満児の待機対策は引き続き必要であり、年度中いつでも入園のできる保育体制の整備を今後も検討していく必要があります。

そして、子育て支援事業の周知策の問題、核家族化による子育ての孤独化の防止、このあたりも対策が必要であることがわかりました。

これらに対する対策を含めまして、それぞれの事業で、第三期計画で目指したいところに向かい、取り組んでいきたいと考えております。

アンケートに関する説明は以上となります。

(会長)

はい。ありがとうございました。

このアンケート結果が、結構な量なので、なかなか全体を説明していただくのも大変だと思うのですが、今ポイントを話していただきましたが、皆さんこのアンケート結果と今の説明も受けて、ご意見、ご感想や疑問点などありましたら、ご発言ください。

(委員)

はい。失礼します。

意見ですが、資料2の自由記述のところで、保護者の思いをここに記述をしていただいているのですが、やはりここにいろいろな、思いが強くあらわれていると思うので、記載するだけではなく、例えばそのキーワード検索だとか、何かこういった思いが強いだとか、傾向とか、そういったものも読み取れるように、まとめ方について、よろしくお願いします。

(事務局)

計画を冊子にする際にも、わかりやすいようにまとめたいと思います。  
ありがとうございます。

(会長)

その他いかがでしょうか。特にアンケートの関係者でもある、幼稚園・保育園関係

者の皆様、実際今のアンケート結果の補足でもいいですし、実際の感想でもありましたら、教えていただけたらと思います。

この結果、そうそうとかやっぱりとか、いろいろご感想があるのではないかなと思うのですけれども。いかがでしょうか。

また、今回Webでの回答を初めて取り入れたというところで、実際どうだったでしょうか、回答率も出ていましたが、Webを取り入れてみてどうでしたか。

意見がないっていうのは良かったということによいでしょうか。

(事務局)

事務局からですが、このアンケートは設問が多いので、係内でも職員でWEB回答をやってみたのですが、結構時間がかかって、大変だという意見もありました。

結果、回答数全体からみて35%ぐらいにとどまったというのも、設問数が多くて、時間がかかるというところで影響があったのではないかと考えています。結果的に紙面に出した方が楽だと感じる方のほうが多かったのでしょう。

集計する側からすると、Webで回答していただくとそのままエクセルシートに貼り付けたりもできるため、作業の手間は少なくなりますが、回答する立場からすると設問が多いので、結果利用率が伸びなかったのではないかと思います。

(会長)

今、事務局から説明がありましたが、確かに設問が多くて大変だということです。ただ、紙ベースのものも用意しておられたので、今後も併用する形式での実施になると考えられますね。

皆さんまた、後程でもいいので、結果について感想等ありましたら教えてやってください。

(会長)

では続きまして、次第の2つ目。

境港市子ども子育て事業計画第三期計画策定の基本方針及び基本的な考え方について。事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

事前配布した資料3、4、5について、続けて説明をさせていただきます。

まず初めに、事前配布した資料3をお願いします。1、計画策定の背景を読ませいただきます。

本市では市民の多様な保育、子育て支援ニーズにこたえ、子ども子育て支援施策を総合的、計画的に推進するため、子ども子育て支援法に基づき、平成27年3月に第1期、令和2年3月に第二期の境港市子供子育て支援事業計画を策定いたしました。令和6年度末をもって第二期計画が終了することから、国の基本指針に基づき、子ども子育て支援に関するニーズ調査を実施し、現状と課題を踏まえた第三期境港市子ども子育て支援事業計画を策定する。

計画の位置付け、計画対象期間、計画策定体制につきましては、この子ども子育て会議や市の各担当課において事業を検討しながら、策定することになっております。



ニーズ調査の方は先ほど説明させてもらった、前年度末に行ったアンケート調査がそれに当たります。裏面をご覧ください。

計画策定上の留意事項です。策定にあたり市議会へ報告をさせていただきます。

下段のスケジュール概要にもありますように、まずはパブリックコメント前の素案段階で報告予定としております。

次に、情報公開です。以前から、境港市子ども子育て会議の議事録等につきましては、ホームページなどで公開をしております。引き続きこちらも実施いたします。

6のニーズ調査の実施ですが、こちらも繰り返しになりますけれども先ほどの説明したアンケート調査がこちらに当たります。

今回の策定については、タイトな計画になっておりますが10月の末予定の子ども子育て会議で決定し、年度末に県に報告するというスケジュール感でいきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に資料4をご覧ください。資料3と重複する点がございすけれども、1策定方針、2計画の位置付けは記載の通りです。「境港市まちづくり総合プラン」及び「境港市地域福祉計画」と関連する諸計画と整合性を図りながら、委員の皆様にご意見を伺いながら進めていくことになります。

3番目の計画の期間については記載の通り、位置付けは、2ページの表の通りとなっておりますので、ご確認ください。

3ページ目の4、第三期計画の方向性についてです。上位計画の整合性の面からも、第二期計画の内容を継承し、その内容を、アンケート調査等から見えた課題から事業の検討や支援内容の充実を行っていく方法で進めたいと考えております。

続きまして、資料5をご覧ください。第三期計画の素案としておりますけれども、こちらは本市計画の骨子となっております。

次期計画のイメージをしていただくために配布しており、現在、修正を予定している部分は、今の時点では下線部の部分となっております。

第2章の計画の背景については、最新で確認できる数値に更新をしており、第3章の計画の基本的方向については、今の段階では第二期計画のまま掲載しております。

こちらの内容については、先ほどのアンケート結果や、委員の皆様からご意見やご提案をもとに、加筆修正を検討している部分となります。

資料5の17ページの施策の体系について、こちらも現状は第二期のまま掲載しております。今後必要に応じて見直しをかける部分となりますので、ご意見やご提案がありましたら、お願いします。

次に第4章につきまして、こちらは各担当課において、事業の振り返り、今後の方針など、見直し作業を行っている途中です。

19ページからの第5章、量の見込みと確保方策についてです。アンケート調査の概要と、児童数の推計のみ掲載しております。量の見込みの算出方法は、原則、前回の方法を引き継ぐ形を想定しておりますが、直近3年間の実績から見込みを出す部分につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、見込みを出してい

く予定としております。

第6章、24ページにつきましても、今のところは第二期計画のまま掲載しております。

今後のスケジュールについてですが、この資料5の骨子をもとに事務局で、今見直し作業を行っている部分を整えたものを、6月末を目途に作成し、7月上旬に委員の皆様へ郵便送付を考えております。

とっとり電子サービスやFAXまたはメール、電話でご意見やご提案をいただき、事務局で取りまとめ、次回第2回の会議の際に提案し、協議の上、素案を決定していきたいと考えております。

今ご説明したスケジュールでご承認いただけたら、これで進めていきたいと考えております。説明は以上となります。

（会長）

はい。ありがとうございました。

今ですね、策定の基本方針及び基本的な考え方について、説明をしていただきましたが、区切って確認したいと思います。

まず資料3、策定の背景と方針、スケジュールも出ています。

今の説明の中で、このスケジュールでよければ、このまま進めたいという話もありましたが、皆さんいかがでしょうか。

今回、資料3のスケジュールを見ると、現状課題、骨子、意見聴取と言うところがあって7月に素案の決定という形になっています。結構タイトだと感じてはいますが、いかがでしょうか。

また、資料4、資料5の素案についても提案がありました。

この素案がもとになり、これに今回のアンケートであるとか、皆さんからのご意見が反映されるというところでよろしいでしょうか。

今の段階で結構ですので、事務局としてこの素案の中で、例えばここはというポイントや、このように変えたいとか、数値のことや、下線部の話はあったと思うのですが、もう一度お願いできますか。

（事務局）

そうですね、今説明の中でお伝えした、現段階で変わることが決まっているのは下線部分です。

そして、先ほどのアンケート調査の結果と委員の皆様のご意見が主に反映されてくる部分として14ページからの計画の基本的方向ですね、ここに基本理念があり、計画の基本的な視点・目標などがあるのですが、こちらが計画のもとになりますので、見直し、修正、加筆などをしていく必要があります。

現状の中で課題となっている、3歳未満のお子さんが年度途中で入園できない状況だとか、孤独化とか、そういった部分は、盛り込んでいけないといけない部分だと思います。

第4章の推進方向は、各担当課が計画の基本的方向に基づき、子育て支援に関わる事業を展開しておりますので、こちらも今回のアンケート結果、皆様からもっとこうしたらいじゃないかというような、ご意見やご提案を反映できる部分であると思っています。

第5章の量の見込みと確保方策については、児童数の推計結果と利用率、潜在的なニーズ等から算出予定としておりますので、現時点では第3章と第4章についてが、主に委員の皆様にご検討していただきたい部分だと考えております。

(会員)

はい。ありがとうございます。

この素案ができ上がってきて、第2回会議の前に送られてきますよね。そこで、今聞いたポイントで注目して、今回のアンケート結果、皆さんの思いが、反映されているかどうかという部分について、第2回の会議で検討協議を行うということでしょうか。皆様にご意見ございませんか。

それでは、アンケート結果も教えていただき、資料も確認しました。素案については、次の第2回会議が本格的な協議の場になるということですね。

スケジュールの部分についてご意見がないというところで、この予定で進めていく形で事務局の方をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(会長)

次の次第に行きたいと思います。

次第3つ目、境港市特定教育・保育施設入所状況等について説明をお願いいたします。

(事務局)

当日資料Ⅰをご覧ください。毎回ですが、わかりにくい表になってしまい、申し訳ありません。

令和5年度の利用実績と令和6年4月1日の実績を掲載しております。あわせて本日お配りしております、境港市の保育園幼稚園の状況についても、ご参照ください。昨年度量の見込みと確保方策の見直しを行いました。令和5年度実績について、いわゆる年度末、3月の状況で、1号認定教育認定のお子さんは見込みよりも少なく、2号・3号認定のお子さんは、見込みよりも多い結果となりました。

また、確保人数と利用実績につきましては、4月1日時点では充足しておりましたが、3月1日時点、いわゆる年度末には3号認定こどもは確保人数を5人オーバーした結果となりました。

この表で見ると、一番下の計でマイナスがついてないところがオーバーした人数になるのですが、このオーバーした部分は、利用定員を超えて、小規模保育事業所が2

名を受入、市外の施設で不足する部分の受け入れを行ったという実績となりました。

また、令和5年度の待機児童の状況を一番下に載せておりますが、9月から0歳児の待機が出ており、3月に最大5名の待機児童が出ております。

この結果から見て、3号認定、いわゆる3歳未満のお子さんの確保方策について、利用定員が10名不足していたということになります。

また、令和6年度確保人数の部分で、数値が変更になっている部分ですが、令和6年度に育成保育園と外江保育園がそれぞれ保育所型認定こども園に移行し、利用定員を変更されました。また、梅檀保育園、つばさ保育園、夕日ヶ丘保育園におきましても、利用定員を変更されています。

令和6年4月1日現在の表の下から3番目の確保人数をご覧ください。今回の利用定員の変更を受け、令和6年度1号認定子どもが183名。2号認定子どもが618名。3号認定が420名となりました。こちらが現在の確保方策になります。

令和6年4月1日現在は確保方策が利用実績を上回っており、充足しているという結果ですが、令和5年度のように途中入園の申し込みが多いと、年度中に待機が出る可能性も十分に考えられます。

また、令和6年4月1日の利用実績につきましては、令和5年4月1日と比較しまして、3歳以上児のお子さんの利用実績は37人減っています。一方で3歳未満児の利用実績は2名増えているという結果となっております。

入所状況についての説明は以上となります。

(会長)

はい。今説明がありましたがいかがですか。よろしいでしょうか。

それでは次に行きたいと思います。

次第3のその他ですが事務局の方で何かございますか。

(事務局)

そうしましたら、その他で、本市の新規事業を少し紹介させていただきたいと思います。

当日資料2をご覧ください。令和6年度から3歳以上児の主食費について、園児1人当たり月額1,200円を上限に補助を行います。この事業を開始することで、境港市在住の子どもはどの施設に通っても、温かいご飯を食べることができ、保護者の負担を軽減することができます。実際に園児の食が進む、おかわりをするなど、施設からもううれしい効果が聞こえてきております。

また本市の公立保育園を一貫保育施設とするための公立保育園にリニューアル事業ですが、昨年度なかはま保育園、あがりみち保育園におきまして、保育室を増設し、あわせて老朽化したトイレ、調理室の改修を行いました。

今年度より、わたり保育園の工事に取りかかります。まずは今年度外構工事を行う

予定です。わたり保育園は、医療ケアが必要な子どもを受け入れるための設備や体制を整えた施設となります。以上です。

（会長）

はい。ありがとうございました。

では、全体を通して、何かご感想でもご意見でも、ご質問でも結構ですけれども、ありますか。今回、資料も多く、整理が大変ですけど。

（委員）

月ごとの出生数っていうか、早生まれのところに何人くらいいるのか、知りたいところではありますね。

アンケートの意見にもありました、「早生まれは（保育園に）入りにくい」と。保育園幼稚園に関してもですが、小学校でも、実際他の子たちより早く入学するので体格や学習の部分についても少し差があります。早生まれの人数は少ないのではないかなと思っていますが、それをまた教えてください。

あともう一つ、4月はどの年齢でもよく風邪をひくのですが、新入園児になればなるほど多いと思うのですが、そのあたりのことが、なかなか保護者さんに伝わってなくて、仕事を始めたのに休んでばかりという話をされます。その辺の手当てがあってもいいのではないかなと思います。

長い子だと半月ぐらい休んでばかりの子もいたりもしますし、4、5、6月の3ヶ月は、就職されて働いても、事業者の方や、働いている人も、そういうことがあり得るということを理解してもらった方がいいのではないかなと思っています。

（会長）

ありがとうございます。事務局の方いかがですか。

（事務局）

早生まれの方の割合については、資料を整えまして、次回の会議には、ご報告させていただきます。

また、入園してからの3ヶ月間は勤め先の方のご理解も必要な部分であると思いますので、そのあたりも働きやすさと合わせて、啓発していく必要があると思いました。ありがとうございました。

（会長）

他によろしいですか。

（委員）

感想といいますか、NPO法人として関わりを持たせていただいている部分で、発言をさせていただきたいと思います。子ども未来ネットワークではアートスタート事業を市と一緒にやってさせていただいておりまして、昨年で10年間事業を継続していきまして、昨年、アートスタートフォーラムというものを開催し、そこで市の方に発表いただきました。県内でもすごく先進的な事例ですし、他県から参加されたアーティストの方もいらっしゃったのですが、他県でもなかなか例がなく、市でしっかりと

事業として取り組まれているということに驚かれておられました。基本方針の方にも、協働のまちづくりを推進しますと書いていただいているのですが、その辺り、すごく大事だなと思っておりますし、先進的な事例をお持ちなので、引き続きよろしく願いしたいということで発言させていただきました。

以上です。

(会長)

事務局の方はどうですか。

(事務局)

ありがとうございます。

私も昨年度、このフォーラムで境港市の取り組みを発表させていただいた事もありまして、子ども達のために、アートスタート事業が本当に大切であることを改めて感じたところですので、このアートスタート事業を知らなかったという人が、アンケート結果でたくさんおられたので、この部分はもっと伝えていきたいなと考えていたところです。

(会長)

今、話にもあったように、認知度の方がかなり低い事業もあったので、そのあたりは、せっかく良い事業を実施しているのであれば、どんどん知っていただいて、保護者の方に周知し、選択していただくというところで、周知の部分においても次の計画の中に盛り込まれるのではないかと思います。その他よろしいですか。

それでは、ちょうど開会してから1時間近くになりました。

今回、色々と説明をしていただきました。次がこの素案をしっかりと審議できたらと思います。お忙しい中だとは思いますが、次回もたくさんの方が発言され、活発な話合いができればいいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それではこれで本日の会を閉じたいと思います。

本日はありがとうございました。

(事務局)

次回の会議は7月31日を予定しておりますので、また案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

# 境港市子ども・子育て会議 委員名簿

令和6年5月30日

|     | 選 出 区 分          | 氏 名   | ふりがな      | 備 考                          |    |
|-----|------------------|-------|-----------|------------------------------|----|
| 副会長 | 子どもの保護者          | 江尻 浩介 | えじり こうすけ  | 小学校PTA連合会会長                  |    |
|     | 子どもの保護者          | 田中亜沙実 | たなか あさみ   | 保育園保護者会連合会会長                 |    |
|     | 子どもの保護者          | 金田 里美 | かねだ さとみ   | 聖心幼稚園PTA会長                   |    |
|     | 子ども・子育て支援に従事する職員 | 柏木 克仁 | かしわぎ かつひと | 境港市保育協議会副会長                  |    |
|     | 子ども・子育て支援に従事する職員 | 遠藤 美和 | えんどう みわ   | 美哉幼稚園園長                      |    |
|     | 子ども・子育て支援に従事する職員 | 荒井 利恵 | あらい りえ    | 企業主導型保育施設園長                  |    |
|     | 学識経験者            | 細田 淑人 | ほそだ よしと   | 境港医師協会<br>竜ヶ山こどもファミリークリニック院長 |    |
| 会長  | 学識経験者            | 景山 良恵 | かげやま よしえ  | 境港市読み聞かせ団体<br>境港親と子どもの劇場代表   | 欠席 |
|     | 学識経験者            | 池淵 菜美 | いけぶち なみ   | こども未来ネットワーク代表                |    |
|     | 学識経験者            | 竹内美智子 | たけうち みちこ  | NPO法人陽なた所長                   |    |
|     | 学識経験者            | 嘉賀 収司 | かが しゅうじ   | 境港市民図書館館長                    |    |
|     | 公募委員             | 宮本 剛志 | みやもと つよし  | 元芝浦工業大学非常勤講師                 |    |
|     | 公募委員             | 舩岡 彩子 | ますおか さいこ  | 境港市学校指導補助員                   |    |

※I 敬称は、略しています。

## 【事務局】

|               |       |
|---------------|-------|
| 境港市福祉保健部長     | 黒崎 享  |
| 境港市子育て支援課長    | 池淵 賢自 |
| 境港市教育総務課      | 角 純也  |
| 境港市子育て支援課児童係長 | 川田 順子 |